



ラーニングコモンズとしての図書館

山梨県立大学学長 清水一彦

今や、大学教育の質保証や学生の学修成果の重視から、「学び」の変革が起こりつつあります。その中で、アクティブラーニング（能動的学修）と呼ばれる言葉が、その主役を担う学修方法として期待されています。

アクティブラーニング型授業を実践するためには、学修支援の空間も構築される必要があります。主体的な学修の確立の観点から、学生の学修を支える環境は、情報通信技術やメディアの急速な発展とともに整備されつつあります。その代表的なものが、ラーニングコモンズ（learning commons）です。それは、主として学生を対象とし、学修支援のための設備・施設、人的サービス、資料を総合的にワンストップで提供する学修支援空間のことです。北米における学修図書館から発生したといわれるラーニングコモンズは、厳しい財政事情や学生層の多様化を背景に、大学教育における実質化や評価において学生の学修成果（アウトカムズ）が問題となり、その解決法として学生の主体的な学びを促進するための人的・物的資源を活用した学修空間であります。

欧米にみるラーニングコモンズの学修空間には、教室やサービスデスク、コンピューター室のみならず、ライティングやプレゼンテーションなどの支援センター、さらにはカフェ、ラウンジなども整備される場合が少なくありません。しかし、わが国においては、多くは図書館となっています。本学においてもこのたび飯田図書館に整備され、まもなく看護図書館にも誕生します。皆さんの深い「学び」を期待しています。



「居たい」図書館

山梨県立大学図書館長 柳田正明

15年程前に厚労省関係の調査でロンドンの南下にあるサザンブロン大学を訪問し、ソーシャルワーカー養成の遠隔教育（Eラーニング）の情報を得る機会がありました。その図書館では、端末を数名が囲み議論し、沈黙し、真剣に学ぶ教員と学生の姿がありました。図書館は静かに学ぶ

ところという固定観念に支配された当時の自分は違和感を持ちました。この経験と上段の学長のご説明が自分の中で重なり、図書館も時代とともに様々な進化をし続けるものであると今更ながら再認識したところです。

当時ロンドン着後、持病の通風発作により計画通りに動けず、3年後再び訪れた時も同様に辿り着いた美術館の絵の「ひまわり」を数えて時間が過ぎていく痛い経験、なれども本場パブのビールは辞さない痛さを恐れぬ行為、これは自分の宴席用「大人の青春物語」となっています。図書館長着任後、重責を再認識しつつも未だ通風発作は出ず、皆様には「痛い」ではなく「居たい」図書館とすべく、今後も努力する所存です。大いにご利用ください。

Y
O
ん
じ
ゃ
N
Z
Y
A

飯田図書館にラーニングコモンズ開設！



平成29年秋、本学の中期計画にも盛り込まれ、長年にわたり検討を重ねてきたラーニングコモンズ (Learning commons) が飯田図書館1階に設けられました。

ラーニングコモンズとは、巻頭の清水学長の文章にもあるとおり、「多様な学修を支援する空間」です。中期計画では「学生の自主的な学びと相談の場」とも記されています。

これまで図書館は「静粛を保つこと」「飲食等迷惑な行為を行わないこと」を遵守事項としてきましたが、このラーニングコモンズでは、これまでとは少し運営方法を変えてスタートすることとしました。次の2点です。

- ① 個人での利用だけでなくグループワークやミーティング (迷惑にならない範囲で) ができること
- ② ふた付きの飲み物 (ペットボトル、水筒等) を持ち込んで飲むことができること

運営方法につきましては、気軽に使っていただくことを基本として、皆様のご意見や利用状況等を踏まえて継続的に見直して、より使いやすいエリアにしたいと考えています。

ラーニングコモンズには、組み合わせる形を自由に変えることができる机や可動式の椅子があります。また、これまで2階閲覧室に配架されていた絵本 (和書・洋書)、大型絵本、しかけ絵本、絵本関連図書・ブックリスト、紙芝居と山梨関連資料 (郷土資料、行政資料) を移した

豊富な資料群もあります。

本学に関連した資料 (ちらし、パンフレット類、報告書、教員著作等) をまとめた「県大文庫」やDVDなどの視聴コーナーも隣接しています。

カウンターでは、館内貸出用のノートパソコンもご用意しています。

これらの設備や資料を使って、様々な形での学修活動、グループ活動を行うことが可能となりました。

今後は、プレゼンテーションの設備も導入し、講座、発表会、小規模イベントなども実施できる空間にしたいと考えています。

このようなラーニングコモンズは、池田キャンパス (看護図書館) にも設置を予定しています。

これからの図書館にますますのご注目を！



山梨県立大学看護図書館の利用紹介

看護図書館は、池田キャンパスの正門をまっすぐ歩いていくとみえてくる建物の1階にあります。白い円柱は、看護学部らしくナースキャップがイメージされています。

図書館には、普段手にしない専門雑誌があります。レポート作成の際など、参考文献として雑誌の記事が役立ちます。ぜひ活用してみましょう！



図書館内の特集記事の検索方法



検索条件

図書・雑誌検索

検索対象: 図書/雑誌 (NIJ CN Books)

著者・著者-出版社・番号など:

書名:

フルタイトル:

分類番号:

出版年: -

ISBN/JSSN: 請求番号/資料ID/MSLコードID:

部分一致検索: (※資料名欄の全て或部分に対し、一部でも一致すればヒットします。検索用のキーワードが設定されていない項目でも検索できます。)

検索区分:

検索結果表示件数:

ポイントは絞込条件で「雑誌」を選択することです！

絞込条件

以下の条件を 含む 含まない 便利な

図書/雑誌: 図書 雑誌

言語:

言語種別:

出版年: -

状態:

- ①図書館HPの蔵書検索画面で、「詳細検索」画面をクリックします
- ②探したいキーワードを入力して検索します

※検索方法、雑誌の探し方など、図書館の利用方法でわからないことは何でも図書館職員に質問してください。雑誌の特集記事検索は、飯田図書館でも同じようにできます。

1件目から50件を表示中 1 | 2 | ... | 次の一覧へ

拡大オプション:

雑誌: 小児看護

著者: 小児看護学会

発行年: 2007

雑誌: 小児看護

著者: 小児看護学会

発行年: 2007

雑誌: 小児看護

著者: 小児看護学会

発行年: 2007

雑誌: 小児看護

著者: 小児看護学会

発行年: 2007

雑誌: 小児看護

著者: 小児看護学会

発行年: 2007

雑誌: 小児看護

著者: 小児看護学会

発行年: 2007

- ③赤い本のマークがないものが雑誌特集の検索結果です
- ④読みたい特集名をクリックすると、詳細画面を見ることができます

雑誌名: 小児看護

内容: The Japanese journal of child nursing, monthly / へるす出版

雑誌ID: 3800000062

雑誌/刊行: 雑誌/刊行

雑誌/刊行: AN001161EX

ISSN: 0388-2809

言語/言語種別: 日本語

出版年: 2007

出版年: 2007

状態: 全巻

著者情報: へるす出版/ヘルス シェアパン <DA03387647>

刊行年	請求番号	刊行年/刊行年
雑誌	IC-121, 2-40, 41(3-2)+1978-2018+続刊中	

雑誌: 小児看護

巻号: Vol. 30, no. 1 - Vol. 30, no. 7

発行年: 2007

状態: 有誌, 複製本

内容: 国内のみ

- ⑤上の画面では、「小児看護」という雑誌・vol.30 no.1-7の製本・所在は看護製本コーナーであることがわかります。



本学には図書館活動をサポートするライブラリースタッフ（通称LS）という組織があります。

看護図書館では、5人のライブラリースタッフが活動してくれています。

年4回発行している図書館新聞「つばさ」は、学生の感性が光っていて、毎回楽しみです！



クリスマスには、毎年ツリーなどを図書館内に飾り付けをしてくれ、図書館内の雰囲気がいぎやかになります。

このほかにも、忙しい大学生活の合間を縫って活動してくれていて、図書館の活性化に貢献してくれています！

（看護図書館 原さとみ）

データベースを使いこなそう！

第1回 一日経新聞だけじゃない！ 情報いろいろ「日経テレコン21」

大学での学修、調査研究を行う上で、今やオンラインデータベースは欠かせないツールです。

「図書館だよりYONZYA」では、毎回、本学図書館で契約しているデータベースをひとつ取り上げて、その内容や使い方など、役立つ情報を簡単に、わかりやすくお知らせします。

第1回は「日経テレコン21」です。

このデータベースは名前の示すとおり日本経済新聞社が提供する情報源ですが、その収録内容は日経新聞の記事だけではなく、他社の新聞記事、雑誌記事、企業情報、人物情報など多岐にわたっています。大変便利で役に立つデータベースです。

これまで使われたものの一部を紹介すると……。

朝日新聞、読売新聞などの全国紙（概ね昭和60年以降を収録）。

北海道新聞、静岡新聞、中日新聞、京都新聞などの一般紙、地方紙。

東京商工リサーチ、帝国データバンクなどの企業情報、ビジネス情報 etc

本学では、従量制（1件利用することに情報利用料を支払う方式）で契約しています。

料金は大学で負担しますが、1件5円のものから1,000円を超えるものまで幅広い設定となっています。必要な情報を効率的に収集してください。

このデータベースは飯田、看護両館の指定のパソコンでご利用いただけます。館内にある「日経テレコン21利用申込書」にご記入の上、カウンターにお申込みください。利用方法やどのような情報が検索できるかなどの詳しい情報は職員が説明いたします。ぜひ活用してください。

（飯田図書館 山形敏貴）



山梨県立大学 飯田図書館

国際政策学部、人間福祉学部がある飯田キャンパスの図書館です。

現代社会、福祉、保育・幼児教育関係の資料や絵本が充実しています。資料点数は約13万冊です。

●開館時間

平日 9:00~21:30
(貸出業務及び学外の方の利用は
19:00まで)

●学外の利用対象

本学の卒業生
山梨県在住及び通勤・通学の16歳以上の方
図書館長が特に認めた方

●利用の特徴

年間入館者数約2万9千人で1日あたり129人に利用されています。保育士・幼稚園教諭・小学校教諭の免許課程があるので、絵本や紙芝居を多く所蔵しており、貸出数も多くなっています。

また、小説やDVDも話題のものが入っているので、勉強だけでなく授業の合間などの息抜きに、みんなで集まる場所としても利用できます。



山梨県立大学の図書館概要

山梨県立大学には、飯田、池田各キャンパスにそれぞれ図書館があります。本学の学生、教職員のほか、学外の方も利用可能です。資料の館外貸出は、両館合わせて、学外利用者の方は3冊までです。

山梨県立大学 看護図書館

看護学部・看護学研究科がある池田キャンパスの図書館です。

看護、医療、福祉関係の資料が充実しています。資料は約8万冊あります。

●開館時間

平日 9:00~22:30
(貸出業務は20:00まで)
土曜日 9:00~17:00

●学外の利用対象

本学卒業生及び看護実践開発研究センター
修了生
山梨県在住の看護師の免許を有する方
保健、医療、福祉関係の業務に従事されている方
図書館長が特に認めた方

●利用の特徴

年間入館者数約6万6千人、1日あたり249人に利用されています。学生や教員の方からは年間に1人あたり134回(2日に1回!)利用されている計算で、大学生活で図書館を使いこなすことの重要さがわかります。

ノートパソコンの貸出も多く、レポートや実習時期にはフル稼働しています。



ここでは、みなさんにお知らせしたい図書館の情報や活動状況を紹介します。

飯田図書館

館内を 改修しました

飯田図書館は開館して37年となります。施設・設備で古くなったところもあり、使いにくいと感じる方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

すぐに新館に建て直すのはむずかしいのですが、できる範囲で改修しながら、利用環境の改善に努めて参ります。

平成29年度には館内に3箇所あるトイレを改修しました。これまで和式だった便器を洋式に取り替え、温水洗浄便座（ウォシュレットやシャワートイレという名称でお馴染み）を取り付けました。

また、館内の放送設備を入れ替えて、これまで聞こえにくかった図書館からのお知らせを聞きやすくしました。これからも皆さまのご意見を伺いながら、利用しやすい図書館を目指します。

看護図書館

「Ovid Nursing full text」 が利用できます

看護系洋雑誌の電子ジャーナルパッケージ「Ovid Nursing full text」を導入しました。LWW発行の47タイトルが利用可能です。図書館HP/看護図書館/電子ジャーナルからご利用ください。

池田キャンパス内であればアクセスが可能なので、看護図書館の休館時にも利用でき、とても便利です。

ぜひご利用ください！



編集 後記

図書館をより活用してもらうために、vol.13では図書館の紹介に焦点をあてました。

飯田図書館にできたラーニングcommonsが、多くの学生さんに利用してもらえる空間になればと思います。また、大学図書館には、学術雑誌など、専門雑誌が多くあります。手に取ってみると、興味のある記事がみつきり、世界が広がるかもしれません。仲間との打合せ、課題解決などの際には、参考資料が身近にある図書館をぜひ活用してください。

(原さとみ)

YONZYA (よんじゃー) Vol.13

平成30(2018)年3月1日発行

編集・発行

山梨県立大学飯田図書館

甲府市飯田5-11-1 TEL:055-224-5340

E-mail:lib@yamanashi-ken.ac.jp

山梨県立大学看護図書館

甲府市池田1-6-1 TEL:055-253-9429

E-mail:toshokan@yamanashi-ken.ac.jp